



トチの実

平均年齢90歳、
ばあちゃん3人のファンが
山に続々やってくる

トチの実で起業

京都府綾部市・古屋集落^{こや}

文 編集部

写真 橋本紘二（*以外）



古屋集落（*）

**3軒4人の集落に
年間3000人が来る**

綾部市の中心部から車で45分。上林^{かんばやし}川とその支流に沿って山を分け入った一番奥に、古屋という小さな集落がある。

かつては70軒の家があったが、時代とともに過疎化し、今住んでいるのは66歳から94歳までの3軒4人のみ。しかし、山に豊富にあるトチの実の加工品づくりに10年前から取り組み、平均年齢90歳のおばあさんたち3人が、現役で毎日バリバリ働いている。

ここに、トチの実拾いやシカ除けネット張りなどの作業を手伝うため、年間のべ3000人が訪ねてくるという。

これが最後のチャンス

以前は、どこにでもある「限界集落」だった。今は作業所で毎日顔を合わせ元気に働いているおばあさんたちも、家に一人でいることが多かった。

変化のきっかけは、綾部市が全国に先駆けて2006年に制定した「綾部市水源の里条例」。存続が危ぶまれる山あいの5集落（当初）に対し、市が特産品開



左から岩崎キノノさん(94)、
細見恵美子さん(87)、渡邊
ふじ子さん(91)

古屋のトチモチはトチの実
2に対しもち米1と、トチの
実の割合が多いのが特徴。
公民館を作業所に、毎朝8
時から夕方4時頃まで忙し
く働く

発、都市との交流、定住促進などの地域
振興を推進し、経費補助その他の支援を
行なうというものだ。
その少し前に都会の勤め先から古屋に